

水道事業会計

水道事業は、原則、水道料金収入のみで経費などを全て賄いながら、市民の皆さんの生活に必要な水を、現在はもちろん将来にわたって安全に、そして安定的に供給するため、市が一つの企業として運営しています。

収益的収支における収入合計は、予算の9億9,754万円に対し、決算は10億2,408万円で2,654万円の増となりました。

支出合計は、予算の8億7,808万円に対し、決算は8億3,435万円で4,373万円の減となり、この結果、収支決算は、1億8,973万円の黒字となりました。

黒字額については、国などからの借金返済に備え、減債積立金に9,487万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に9,487万円を積み立てる予定です。

資本的収支における収入合計は、予算の4億3,300万円に対し、決算は3億6,719万円で6,581万円の減となりました。

また、支出合計は、予算の9億6,583万円に対し、決算は8億2,253万円で1億4,330万円の減となりました。

この結果、収支決算は、4億5,534万円の不足となりましたが、不足額は減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

給水人口 45,779人
給水戸数 21,683戸
年間給水量 3,770,424立方メートル

収益的収支

項目	金額
収益的収入	10億2,408万円
営業収益	9億8,204万円
(内給水収益)	9億4,718万円
営業外収益	4,204万円
特別利益	0万円
収益的支出	8億3,435万円
営業費用	7億6,920万円
営業外費用	6,514万円
特別損失	1万円
純利益	1億8,973万円

資本的収支

項目	金額
資本的収入	3億6,719万円
企業債	2億8,280万円
負担金	5,452万円
補助金	2,987万円
資本的支出	8億2,253万円
建設改良費	5億95万円
企業債償還金	3億2,158万円
不足額	4億5,534万円

企業債の残高(令和3年3月31日現在)

43億6,719万円

※給水人口一人当たり…95,397円

簡易水道事業会計

主に農業活動などを支えるライフラインとして重要な役割を担っている簡易水道事業。北海道や市の営農用水事業を経て、市は、平成8年度から簡易水道事業としての経営認可を受け、事業運営を行っており、平成31年度からは企業会計方式を採用し、市が経営する企業として運営しています。

令和2年2月に料金の改定を行い、今後も令和4年と令和6年に段階的に改定するなど、赤字の解消に努めていますが、収益的収支において1,190万円、資本的収支において345万円の不足となりました。

不足額は、減価償却費などの内部留保資金（損益勘定留保資金）などで補てんしました。

給水人口 147人
給水戸数 116戸
年間給水量 82,955立方メートル

収益的収支

項目	金額
収益的収入	2,961万円
営業収益	1,341万円
営業外収益	1,620万円
特別利益	0万円
収益的支出	4,151万円
営業費用	3,923万円
営業外費用	227万円
特別損失	1万円
純損失	1,190万円

資本的収支

項目	金額
資本的収入	484万円
企業債	0万円
補助金	484万円
資本的支出	829万円
建設改良費	67万円
企業債償還金	762万円
不足額	345万円

企業債の残高(令和3年3月31日現在)

1億9,455万円

用語解説

- 収益的収支…設備や施設などの管理に必要な支出と使用料などの収入を表したもの
- 資本的収支…施設の新設や改良のほか、借金返済などにかかる支出と、企業債収入などの収支を表したもの